

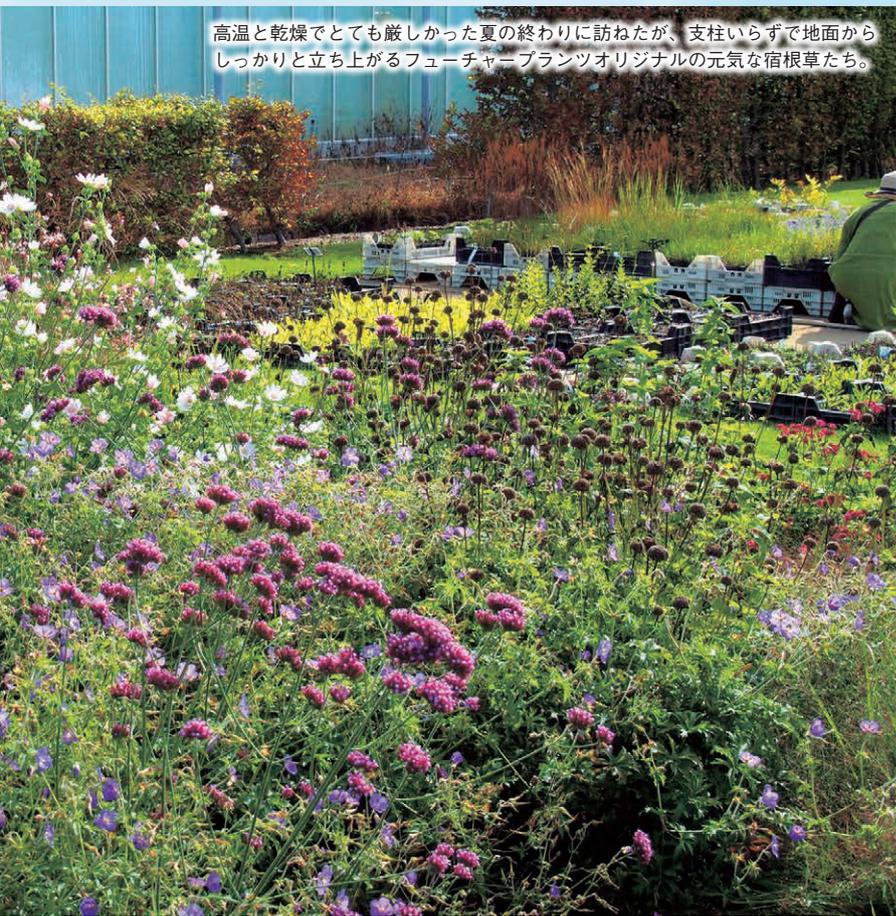
新・宿根草主義の大いなる担い手

今、欧米で注目されている人気のナーセリーがオランダにあります。かねてから憧れていたそのナーセリー訪問を昨夏に実現させた吉谷桂子さんに、人気の理由を探っていただきました。

「フューチャープラント」を訪ねる!



高温と乾燥でとても厳しかった夏の終わりに訪ねたが、支柱いらずで地面からしっかりと立ち上がるフューチャープラントオリジナルの元気な宿根草たち。



フューチャープラント社のサンプルガーデンの全貌。まるで屋外の応接間のように配置された中央のガーデンファニチャーが象徴的。左右のボーダー花壇に自社プラントがいきいきと育っている。



ここがオフィス!? コンテナハウスだけれども、憧れのフューチャープラントのロゴを見つけてうれしくなった。



写真上/ゲリットさんに性質の強い植物について伺った。暴れたり倒れたりすることなく、庭の景色を安定的に調和させてくれる植物は何か。手前の紫色の花はロシアンセージ ‘リトルスパイヤー’。

写真左/地面から元気に立ち上がるサクシセラ (白花) は、雨の少ない時期にとっても元気そうに見えた。ゲリットさんおすすめ植物の一つ。

吉谷桂子さん 憧れの

イギリスでも、ほかの 欧米の国でも注目を浴びる オランダのナーセリー

2年前、イギリスで宿根草が美しい初秋のイングリッシュガーデンを見学して巡った時のことです。そこで出会った庭のオーナーから、庭に植えている植物のほとんどをオランダまで車を走らせて買い付けに行くという話を伺ってびっくりしました。この20〜30年の間、イギリスで手に入らない植物はないと思っていました。英国王立園芸協会が毎年発行する「プラントファインダー」という本には、7万8千種もの植物の入手先が記載され、それを調べればたちどころにイギリス中の育苗農家や栽培家が見つかります。それなのになぜわざわざオランダへと向かうのでしょうか。最先端のイングリッシュガーデンがオランダからやって来た植物で満たされていたなんて、驚きと同時に、これも21世紀のガーデンの傾向の一つなのだと感じました。

「フューチャープランツ」でした。「フューチャープランツ」については以前から知っていましたし、憧れを抱いていたナーセリーでもありました。なぜかというところ「21世紀最高のガーデンデザイナー」とも賞賛されるピート・アウドルフさんがその創設にかかわり、現在でもそこで育種された植物をよく利用されているからにほかなりません。実際にお訪ねし、この目で新しい植物を確認したい、じっくり話を伺いたいとずっとチャンスを狙っていました。

そして昨年の晩夏、ついに訪問が実現しました。毎年、私が主催するガーデンツアーがあり、昨年は丈夫で美しい宿根草を使い、ローメンテナンスを実践する自然主義の植栽、いわゆる「新・宿根草主義」（別名Dutch Wave）の源流を探るといのが旅のテーマでした。「フューチャープランツ」は設立から25年以上が経過し、2017年からは、設立メンバーであるピート・アウドルフさんほか3名が退いて、若手育種家のゲリット&ヘイン・ロマース兄弟が引き継いでいます。ここにはサンプルガーデンがあり、200種類以上の多年生植物や観賞用グラスが植えられ、さまざまな栽培

培品種の成長、開花、そして年間を通しての過程を知ることができます。初夏に咲く宿根草がどんな姿で夏から秋冬を迎えるのかなど、開花時期以外の植物の姿を見られるのはとても貴重な体験だと感じました。

「フューチャープランツ」が誕生させている宿根草の基準の一つが、自然と調和しながら性質が強く、ほかの植物との相性がよいことなのですが、それが私の関心を強く引いた一番のポイントでした。ゲリットさんと創始者の一人、エリー・ギールリングスさんに案内をしていただき「フューチャープランツ」の基準を満たす宿根草や新しい注目の植物を伺う中で、やはり、昨年の夏の過酷な暑さで焼け焦げたようになっていた植物も見受けられました。しかし、性質が強いので、葉が傷んではいても、たっぷりの生命力を感じさせてくれました。また、性質が強いことで雑草のように侵略的になったり、暴れることがない品種が選ばれていることもポイントです。私が、支柱いらずで真つすぐに立ち上がる宿根草を探していると話すと、それならロシアンセージやベルシカリアだとゲリットさんが教えてくれました。



暑い日本でも楽しめる元気な花のおすすめをエリーさんに伺うと、このハイビスカス「サマーstorm」を見せてくれた。今すぐにもこの苗を買いたい気持ちを必死で抑える。



植えられたばかりの宿根草のエリアがあったので、株間を測ってみた。ランダムに自然風に植えるので均一ではないが、25cmくらいの株間。案内株間を狭くするのはマッサプランティング（塊植栽）の特徴。2年以内には一つの大きな宿根草のように見える植え方だ。

創始者の一人、エリー・ギールリングスさんがお気に入りのアジサイを見せてくれた。彼女のセーターと同じ色！アジサイは最初、日本から運ばれてオランダで育種が盛んになった。



吉谷桂子

英国園芸研究家。ガーデン&プロダクトデザイナー。7年間のイギリス滞在経験を生かしたガーデンデザインを提案。神奈川県「箱根サンテグジュベリ 星の王子さまミュージアム」のガーデンや群馬県「中之条ガーデンズ」の設計、静岡県「はままつフラワーパーク」、北海道「銀河庭園」の植栽デザイナーを担当。「庭の色」「花の楽しみ 育て方飾り方」（共に主婦の友社）など著書多数。



ガーデンツアーで訪問した私たちのために、ドリンクバーとオランダ菓子を用意して待っていてくれた。日本からの私たちは大歓迎を受けてみんな大満足！

